

# 難波田城だより

2015年 春

63号

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

NEWS from NANBATAJO

編集・発行  
富士見市立難波田城資料館

## 「<sup>おおぎ</sup>扇だこ」との出会いから

市民学芸員 村江 近人

私が扇だこに興味をもったのは、市民学芸員になる前、資料館の学芸員が市民大学で講演していたのを聞いたときからでした。私自身、子どもの頃は家の裏に竹やぶがあり、竹を使って色々なおもちゃを作っていましたが、不思議と凧を作ったことはありませんでした。その後市民学芸員になり、初めて竹で扇だこを作りました。この時は、凧の骨組み作りで麻と竹ひごとを組み合わせていく工程、骨組みに和紙を貼っていく工程、墨と染料とを使い絵付けをしていく工程、一つ一つとても苦労したのを覚えています。

扇だこは、かつて富士見市で作られていた和凧の一種で、川越近辺で広く普及していました。名前は写真のような扇形に由来し、さらに扇の形は、末広がりであることから縁起物ともされていました。この凧の創始者は、市内上沢に住んでいた大曾根龍蔵氏であるとされています。氏は越後(新潟県)で作られていた盃凧からヒントを得て、幕末から明治初年にかけて扇だこを作り始めたそうです。扇だこの製作は、大曾根家と川越の海老沢家で行われ、最盛期の大正時代には、大曾根家だけで年間2万個以上製作されていました。しかし、戦後衰退し、昭和27~28年頃には製作されなくなってしまいました。その後、凧愛好家の努力により、龍蔵氏の孫で、製作技術伝承者である勝男氏の存在が明らかになりました。昭和51年、南畑公民館で勝男氏を迎え、講習会が行われ、これを契機に「扇だこ保存会」が結成



扇だこ

されました。難波田城資料館では、平成24年から毎年保存会による講習会が行われています。

私自身も、平成24年の講習会に参加し、それ以来毎年参加しています。最近では、個人的に凧の絵付けを習い始めました。また、凧の材料を作れるようになるため、資料館友の会竹かご部会に入会しました。市民学芸員としての活動でも、竹トンボ、ブンブンゴマ作りなど竹を使った体験学習の企画に関わるようになりました。扇だこに出会ったことで資料館での活動の幅が広がってきました。

今後も、自分の関心を活かしながら活動を続けていければと思っています。また扇だこの伝承にも関わっていければ、とも思っています。

最近川越市では、扇だこも含めた凧の製作やそれを揚げる機会が定期的に設けられているそうです。その他に学校への出前授業なども行われ、様々な広報も行われているようです。

富士見市でも、扇だこの主産地であった伝統を活かし、地域独自の製作技術の伝承、加えて、扇だこを揚げて楽しむイベントの充実や、縁起凧として愛でる文化なども受け継いでいければ、と思っています。

(参考文献) 富士見市教育委員会編 1979 『郷土民芸扇だこの作り方』



平成26年度 扇だこづくり講習会 集合写真

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

「馬頭観音」

公園内には、宅地造成などで移設されたさまざまな石造物があります。今回は、その中の一つ「馬頭観音」をとりあげます。

馬頭観音は、文字が刻まれたもの、像が刻まれたものがあります。刻まれる像には、頭上に馬頭をいだいて忿怒の顔をしたもの、馬の顔をしたのなどがあります。これらは、馬の保護神として、あるいは供養のため、江戸時代の中頃から広く信仰されるようになりました。

田んぼ脇の竹やぶ前にある六基は、文字が刻まれたものです。うち一基は軍馬観音と刻まれ、軍用の馬を供養したものと考えられます。

また、文久二年(一八六二)に造られたものは、正面に「馬頭観世音」右に「是ヨリ一丁行右へなんはたハシ」、左に「北かわごへ」・「文久二戌年建立施主森川勝五郎」、裏に「東は祢くらわたしバ」と刻まれており、道しるべを兼ねています。これらは資料館の前身である考古館に保存されていたもので、開園の際に今の場所に置かれました。

ちなみに、資料館友の会拓本部会の調査では、市内に八十八基の実存が確認されています。その多くは飼馬の供養のために個人が建立したものです。(塩入たま江)



馬頭観音(六基のうち一基)



もともとは南畑新田にあった六基の馬頭観音が、運動公園になるため南畑公民館の敷地に保存された。写真は移設前のお祓いの様子。

おもしろ・なつかし体験④

市民学芸員養成専門講座

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

富士見市立資料館のボランティアである市民学芸員になるには、基礎講座と、水子貝塚、難波田城の各資料館で行われる専門講座を受ける必要があります。難波田城公園の専門講座(全4回)では、資料館、難波田城跡、古民家などを歴史公園としてとらえ、それぞれに関して学んでいきます。

第一回の講座「難波田氏と難波田城」では、難波田氏関連の資料を時系列に用いて、その系譜と武蔵の戦国時代および、この地域での難波田城の役割などを学びました。

第二回の古民家に関する講座では、古民家移築

保存の経緯や今年度行われた差し茅修繕についての解説がありました。たとえば茅屋根の材料では、荻が最高級で長持ちすること、その材が、旧大澤家、旧金子家住宅ともに使われていることなどを学びました。

第三回は、ガイドツアーと縄ないを体験しました。そして最後の講座では、これまで学んだことを活かして実際にガイドを行います。

昨年8月より続いたこの講座の後、4月には第六期の市民学芸員が委嘱されます。学びをつないだ方々の出番が待たれます。(内藤 恒義)



参加者は皆真剣そのもの!



園内ガイド見学中



## 人の創ったもの★人の使ったもの

### 古民家の差し茅 (さしがや)

昨年末(平成 26 年 10 月～12 月)、難波田城公園の旧金子家住宅で茅葺き屋根(以下、茅屋根)の差し茅修繕を行いました。平成 24 年度には旧大澤家住宅でも実施した「差し茅」について解説します。

#### 差し茅とは

差し茅とは、古い茅屋根に新しい茅を差し足すことで屋根を良好な状態に保つ方法です。屋根の状態にもよりますが、10～15 年に 1 度は必要なメンテナンスです。これを怠ると、雨漏りなどで家屋本体の部材が傷む原因になります。

茅(萱)は屋根材に使う草の総称で、オギ、ススキ、ヨシなどがあります。当公園ではオギを使用しています。雨に強い丈夫な茎をもつ茅ですが、歳月とともに痩せ、雨がかかる先端は傷み、日当たりの悪い北面などには苔が生えます。

当公園の古民家は 2 棟あり、開園直前の平成 11 年(1999)に移築復元した際、茅屋根を葺きましたが、旧大澤家住宅では 7 年後くらいから、旧金子家住宅では 9 年後くらいから苔や棟まわりの茅の抜け落ちが目立ち始めました。

「茅屋根の葺き替えは 50 年に 1 度」ということはマスコミで時々紹介されますが、差し茅についてはほとんど知られていません。

#### 差し茅の作業と道具

差し茅では、歩き竹という足場用の竹を設置しながら、軒先から棟に向かって作業を進めます。歩き竹の間隔は約 50cm、足の裏から膝までの長さです。下の竹に足を乗せ、上の竹に膝を掛けて体を安定させ、作業をします。

まず、上げ竹というヌンチャク形の道具の長い方



上げ竹を差しこむ

を茅屋根に差し込み、グッと持ち上げて隙間を作ります。この隙間を保つため、短い支え棒をかませます。この隙間か

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

ら古い茅を 10cm くらい引き出し、新しい茅束を差し入れます。肩まで腕を入れ、茅束の先端を、最初に葺いた茅



差し茅を終えた旧金子家と職人

を固定しているホコ竹だけの下に挟み込みます。この差し茅作業を水平方向に進め、終わったら上の段の歩き竹を設置します。こうして棟付近に到達したときには、旧金子家の場合、軒から棟までの間に歩き竹は 12 本、差し茅は 24 段になりました。

棟まわりの補修(茅材・杉皮交換、押さえホコ竹・覆い、鳥除け針金・銅網、害獣予防金網の新設)をした後、今度は歩き竹を外しながら、上から下へ茅を刈り揃えます。まず、刈り込み用ヘッジトリマー(電動式)で荒刈りをし、屋根バサミで仕上げ刈りをします。勾配こうはいが一定になるよう注意します。刈った後はガンギこうはいという道具で叩いて平らに整えます。

軒先の刈り込みには中バサミちゅう(中型の屋根バサミ)を使います。軒は茅の根元がまとまった面で非常に硬いため、1 回刈るごとに刃に油を注します。

#### 茅屋根の職人と技

今回の差し茅修繕は請負業者が作業日数 29 日、職人 3～5 人で実施し、費用(約 860 万円)の一部は(公財)文化財保護・芸術研究助成財団より助成を受けました。

屋根職人の親方・竹村欣一きんいちさん(77 才)は千葉県松戸市の方です。子供の頃、自宅の屋根を直しに来ていた親方に誘われ、住み込みで修業を始めました。60 年前に独立したときに親方からもらった道具を今でも大切に使っています。手伝いの職人は栃木市の農家の方で 60～70 才代です。良質の茅が採れる渡良瀬遊水池の近隣にお住まいで、茅場の管理などにも携わっているそうです。職人の高齢化は否めませんが、自然の材料を上手に利用した先人の技と知恵を後世に伝えていきたいものです。(駒木敦子)

遊びにきてね!



## ＊ ＊春のイベント予定＊ ＊

### ●企画展情報

#### 平成 27 年春季企画展「古老が描いた昔一喜太郎さんのスケッチブック」

このたび資料館に寄贈された、故・渋谷喜太郎氏のスケッチブックは、大正～昭和に暮らした人々を柔らかいタッチで生き生きと描いています。それらをとおして、かつての暮らし・子ども・まつり・風景などを振り返ります。

会期／3月14日(土)から6月14日(日)まで

会場／特別展示室

#### 企画展関連講演会「川と水の古里“なんばた”」

南畑公民館だよりで地元の昔を伝えるコラムを連載している方に、昔のようすや、それを伝え残す意義についてお話しいたします。

とき／3月28日(土) 午後1時～3時

定員／30人(申込み順) 参加費／無料

会場／講座室

講師／渋谷一夫氏(前文化財審議会委員)

申込み／電話または窓口で

### ●ちよこつと体験「昔の着物を着てみよう」

野良着や羽織などを着て、ちよこつと昔の気分を味わってみませんか。子ども用も大人用もあります。

とき／3月29日(日) 午後1時～3時

※2時30分受付終了

場所／講座室 参加費／無料

申込み／直接ご来場ください

※順番待ちをしていただく場合もあります

協力／和道文化着協協会

### ●田んぼ体験隊(全7回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。

場所／公園内田んぼ

定員／15組(1組4名以内)。申込順。

対象／市内在住・在学・在勤者を含む家族又は友人

参加費／1組1000円(年間。材料代・通信費)

持ち物／汚れてよい服装、田んぼに入るときの履物

申込み／4月1日(水) 午前9時より電話で

農業指導／柳下春良氏(地元農家)

日程／

| 回 | 内容               | 日付                  | 時間     |
|---|------------------|---------------------|--------|
| 1 | 説明、種まき、耕起        | 5/16(土)             | 14～16時 |
| 2 | 代かき、田植え          | 6/13(土)             | 14～16時 |
| 3 | 草取り<br>(1回以上参加)  | 6/27～7/18の<br>毎週土曜日 | 10～11時 |
| 4 | かかし作り、<br>流しそうめん | 8/1(土)              | 10～12時 |
| 5 | 稲刈り、矢来かけ         | 10/10(土)            | 14～16時 |
| 6 | 脱穀               | 10/31(土)            | 14～16時 |
| 7 | もちつき、わら細工        | 12/19(土)            | 10～12時 |

### ●第24回ふるさと探訪

#### 難波田城界隈の文化財を訪ねる

難波田城公園とその周辺には、人々が大切に受け継いできた文化財が多く残されています。

新緑の季節、新たな発見を楽しみましょう。

とき／5月9日(土) 午前9時30分～午後3時

集合場所／市民文化会館キラリ☆ふじみ

定員／30人(申込順)

参加費／500円(保険料、資料代等。当日徴収)

持ち物／昼食・飲み物・雨具

申込み／4月1日(水)～29日(祝)に電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

### ●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

3月29日(日) 草もち

4月26日(日) かしわもち

田舎まんじゅう販売

第1、3日曜日 10:30～

お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)

第2火曜日 11:30～13:30

※詳しくはお問合せください

### ●難波田城公園まつり

6月7日(日)に開催します。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどで確かめください。

### 〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

特集

# 企画展 古老が描いた昔

## 渋谷喜太郎さんを取材した思い出

市民学芸員 小森 和雄

平成 2 年(1990)9 月 16 日(祝)は小雨。図書館が主催するビデオ作品作り講習会の日でした。図書館職員松田氏と私は、室内作業のグループと分かれて下南畑竹之内の渋谷喜太郎さん宅へ向かいました。昭和 62 年(1987)6 月から南畑公民館だより「古老がえがく南畑のむかし」を連載していた喜太郎さんは、当時 83 歳でした。先祖は大正時代まで山下河岸で雑貨店を営んでおり、その後、人形職人に転じていました。

喜太郎さんはツクツクハウシの鳴声が聞こえる居間で、奥さん(ミキコさん)と二人で取材に応じて下さいました。現在 23 分のビデオ作品「古老がえがく大正・昭和～南畑・渋谷喜太郎さん～」として手元にあり、今回の企画展に際し、再編集されて会場で上映されます。この作品を元に当時の渋谷ご夫妻のお話を紹介します。



絵を前に取材中の渋谷さんと筆者

- (1) 十二三年前、「こうれい学級」で、南畑の郷土史研究をすることになった。
- (2) 最初は大学の先生等の話を聞いていたが、自分達が生きてきた明治・大正・昭和を記録しようということになった。
- (3) お前も描いてみてはどうかと勧められ、子供達や後の人達に昔のことを残したいとの思いで描き始めた。奥さん以外は知らなかった。
- (4) 奥さんが絵のことを話したことから「公民館だより」に掲載されることになった
- (5) 公民館だよりを読んだ人達から「毎月、絵を

見るのが楽しみだ」と言われて頑張っている。

喜太郎さんの絵が初めて南畑公民館だよりに掲載されたのは昭和 59 年(1984)12 月号で、翌年 2 月号には「古老がえがく南畑のむかし」と題して①投網を打つ漁師 ②キツネとタヌキに化かされた話 ③ピートロアメ屋 ④竹馬(鉄砲かつぎ)をする子供 ⑤豊富な井戸水(自噴井戸)と洗濯する女が、特集されています。

当日絵を前に多くの話を伺いました。このビデオでは、①田うない ②田植え(耕地整理以前の田んぼは三角など色々な形をしている) ③新河岸川と帆かけ舟 ④下り舟 ⑤前河岸(水谷) ⑥志木の河岸(米市) ⑦木染の渡し場・大応寺 ⑧春の風物詩「火ぶり」(カンテラを照らし田んぼのドジョウを獲る) ⑨鯉とり(川を網で囲い、手づかみ)については、渋谷氏の解説付きです。

その他、子供の遊び(かごめかごめ、石蹴り、縄とび、コマ回し他)・正月の遊び・兵隊さんを送る・学校の様子(志木の富士塚への遠足・所沢飛行場への遠足・弁当・音楽の時間・掃除・チリンチリンと鐘を鳴らす用務員さん他)など多くの作品を見せていただきました。

喜太郎さんは、平成 5 年にお亡くなりになり、その作品約 800 点は、このたび難波田城資料館に寄贈されました。今回の企画展で未公開作品を含む多くの絵が展示されます。

現在では、デジカメでいくらかでも写真や動画を撮ることが出来ます。しかし、昭和 30 年代以前は庶民がその日々の生活を記録しておくことは困難でした。その当時の様子を知る貴重な資料として、喜太郎さんの絵は後世に引き継がれていくことでしょう。僅かですが、喜太郎さんの生の声を残すことが出来た者として、その時を振り返っています。

「大変優しい人で、子供を叱ったことがない」とおっしゃった奥さんの言葉と、その時の喜太郎さんの笑顔を忘れることが出来ません。



ミキコさん



平成27年春季企画展

# 古老が描いた昔

—喜太郎さんのスケッチブック—

会期

2015年3月14日(土) ▶ 6月14日(日)



関連講演会

川と水の古里  
“なんばた”

講師 渋谷一夫氏  
日時 3月28日(土)  
午後1時～3時  
会場 資料館講座室  
定員 30人(申込順)



なんばたじょう  
難波田城  
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

富士見市立難波田城資料館

入館無料

〒354-0004 埼玉県富士見市大字下南畑 568-1  
Tel 049-253-4664 / Fax 049-253-4665

【休館日】月曜日(祝日を除く)  
祝日の翌日(土・日・祝日を除く)

【開館時間】9:00 ~ 17:00

【交通案内】●東武東上線志木駅東口より東武バス富士見高校行き、  
「難波田城公園南口」下車徒歩5分又は「興禅寺入口」下車徒歩3分  
もしくは「下南畑」行き、終点下車徒歩10分  
●東武東上線鶴瀬駅東口より市内循環バス「難波田城公園」下車、  
もしくは「興禅寺」下車徒歩7分

